（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

熊本県立八代工業高等学校（全日制）　平成２９年度学校評価表

１ 学校教育目標

「学力の定着」、「規範意識の育成」、「進路の保障」、「人間尊重の精神」を基底に置き、校訓「誠実」を核として、知力・体力・人間力を磨き、未来を切り拓く主体性のある生徒を育成することを目指すとともに工業高校としての使命を果たし、地域の信頼と期待に応える学校づくりに努める。

２ 本年度の重点目標

熊本県教育振興基本計画の第２期くまもと『夢への架け橋』プランと本校校訓『誠実』に則り、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」くまもとの教職員像の行動指標を踏まえ、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」など「生きる力」を育み、特色ある信頼される学校づくりを目指す。

①社会に適用する人間力を持った人材育成　②確かな学力の向上と進路実現
③部活動の積極的推進　④開かれた学校づくり
⑤教育環境の整備充実と安全教育の推進　⑥校務改善に積極的に取り組み教育の質的向上を目指す

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校目標及び重点目標の共有	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	教育目標と重点を説明し、教職員・生徒は9割、保護者は8割以上の認知度を目指す	職員会議、全校集会、ＰＴＡ総会、学年保護者会、地区懇談会、三者面談、学校新聞等で本年度教育方針等の説明	B	教育目標や重点目標の理解度はアンケート結果から保護者93%、生徒89%で、残念ながら生徒は９割に及ばなかった。今後も積極的な広報を行い、周知徹底を図りたい。
	学校マネジメントの充実・強化(組織的活動の確立)	各部、各科の目標達成に向けたマネジメントの確立	各部・科での役割認識と組織の一員としての使命感と自覚	定期的に各部・科の連絡会を開催し、目標達成に向けた進捗状況と今後の対策の確認	B	部会等が定期的に開催され、その職責を認識し、業務を遂行できている。年度末には各分掌での課題や次年度の取組事項も情報共有している。
	教育環境(施設・設備)の充実と積極的な活用	実践的で教育効果があがる教育環境整備	実習内容の充実と高度化への施設設備検討	既存の機械設備等により指導内容を向上させ、技能の向上を図る	B	各種コンテスト・体験入学・中国高校生交流事業等へ対応するため、現有設備を活用し生徒への技能の向上を図ることができた。
		働きやすい環境整備	週１回、身の回りの環境整備を実施	職員室・各管理室の清掃・整理整頓の徹底	C	清掃活動は毎日実施している。整理整頓については、機会がある毎に確認しているが、個人差がある。今後も徹底していきたい。
		現有する施設・設備の活用と点検	施設・設備の安全点検と整理整頓の徹底	学期毎に施設設備の安全点検簿の提出	B	安全点検については、各科・各教科等において、定期的に行っており、整理整頓の他、安全教育にも力を入れている。
学力向上	授業の充実（わかる・わかりやすい授業の実施） 教職員の授業力向上	生徒の実態と理解度の把握、学習意欲を引き出す授業の工夫	基礎・基本的学力の確実な定着と目標達成に向けた学力向上	授業時数の確保、年間授業計画を学期、月毎にチェック 成績不振者への補習の実施、考査前・考査中の部活動中止	C	学校行事等が多く、特別時間割で対応することが多かった。週１回しかない科目については、授業計画や調整が大変であった。 考査前考査中は部活動を休止し、補習等を行った。関係保護者会該当者及び欠点保有者は昨年度と比べて減少傾向にある。 生徒参観週間、公開授業週間を実施し、生徒の実態把握等を行った。アクティブラーニングやＩＣＴを活用する授業も多くあり、分かる授業・わかりやすい授業への取組が積極的に行われていた。
			授業向上への研究授業の実施（ＩＣＴ機器活用・アクティブラーニング等）	生徒による授業評価アンケートの実施（理解度調査）、各教科最低１回の研究授業の実施、公開授業週間、生徒参観週間		
	工業の各分野に関する基礎・基本的な知識と技術の習得	知識と技術の向上に向け、技能検定や国家資格等に挑戦	ｼﾞｭﾆｱﾏｲｽﾀｰ認定者数の全国上位校入り（100人以上の認定）	資格検定試験の精選、学科と学年が連携し継続的指導、朝や長期休業中の課外の実施	B	朝課外や長期休業期間を利用し、各科とも計画的に資格検定取得に取り組んでいた。ジュニアマイスター認定者数も大幅に増えた。
	専門的な知識と技術の深化「ものづくりは人づくり」	創意工夫をこらしたものづくり	「生徒研究発表会」「ものづくりコンテスト」等各種コンテスト入賞、こども科学フェアの継続実施	各種大会出場者の徹底指導、学科や学年を超えた指導、指導者の技術力向上に向けた研修会等の実施、学校広報活動の充実	C	高校生ものづくりコンテストは、銀賞２部門、銅賞１部門と昨年度に比べ結果を残すことが出来なかった。その他、溶接競技大会やマイコンカーラリー大会も昨年度の成績を下回った。こども科学フェアは好評であった。
			課題研究の充実	生徒の興味関心に合った研究継続型課題研究の内容検討	C	テーマは職員主体になりがちである。一部継続的なテーマを実施しているが、単年度で終了する内容が大概を占めている。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実と強化	保護者・生徒への的確な進路情報の提供と目的意識の啓発	保護者会・学年集会、ＬＨＲ等での進路指導の充実	進路講話（保護者向け、学年ごと）の実施、進路だよりの発行等啓発活動の実施 インターンシップ、工場見学等の実施	B	保護者向けには進路講話、工場見学を実施することができた。生徒向けの学年集会やＬＨＲ、進路便り、インターンシップ等について、今後一層の充実が必要と考えられる。
		きめ細やかなキャリアガイダンスの実施	進路決定率100%の進路希望実現	進路指導部、学年、各学科の連携によるきめ細やかな指導	A	高卒の求人倍率が非常に高くなっていることもあり、順調に進路を決定できた。
	高レベルの進路実現(伸ばす教育の実現)	生徒の希望に応える進路指導体制の確立	難易度の高い大学、公務員、企業等への合格者の増加	進学指導体制の充実と進学課外の実施 公務員指導体制の充実と公務員課外の実施 就職指導体制の充実と基礎学力課外(朝課外)の実施	B	１次試験の合格率93%（昨年度94%）と好調だった。しかし、不調理由として学力不足を指摘され、内定者でも更なる勉学をと言われた企業もあった。平素の授業や朝課外・資格取得等、一層の充実を図っていきたい。
生徒指導	社会で必要とされる心構えと基本的生活習慣の確立	・時間、期限、約束、ルールの厳守 ・心のこもった挨拶や言葉遣い、礼儀、マナー、制服の着こなしの徹底 ・情報モラルの習得	・欠席遅刻の減少 ・笑顔で明るい挨拶とＴＰＯに応じた言葉遣い、礼儀、マナーの習得と服装の着こなし指導の徹底 ・情報モラルの育成	・挨拶指導や校門指導 ・交通安全や携帯電話教室の実施 ・定例服装検査と日常的指導 ・ＰＴＡや地域との連携した指導と生徒会活動を通しての生徒指導	B	大多数の生徒が、概ね良好な学校生活を送り、基本的生活習慣の確立が見られる。交通安全教育や情報モラル教育の充実を図った結果、当事者意識の高まりが見られた。しかしながら、一部においては、まだ不十分な生徒が見受けられる。ＰＴＡや各家庭との連携を含め、今後も根気強く取り組む必要がある。
	校訓「誠実」と友愛精神の涵養	・誠実な言動の確立 ・自他の尊厳と生命を尊重する心の育成 ・母校愛の育成	・自他への危害や損害を与える行為禁止 ・過ちを素直に認め、課題や問題への誠実な対応力の育成 ・校歌斉唱の充実	・教育活動全般を通し、全教職員が、「認め・ほめ・励まし・伸ばす」を念頭に、毅然とした態度で生徒に向き合う ・始・終業式や卒業式等における校歌指導の徹底	B	多くの学校行事や教育活動を通じて、誠実な態度や言動が育まれている。いくつかの問題行動が発生したものの、保護者と連携してその解決に当たり、素直に過ちを認め指導に従う生徒の姿があった。母校愛の育成については、校歌を大きな声で歌うこと以外にも、様々な教育活動において、育成を図りたい。
	問題行動や悩みを持つ生徒への対応	・不適応行動を起こした生徒や不登校生徒の指導や支援	・課題を抱える生徒への組織的支援の確立、特別指導の充実	・特別指導計画の作成と組織的な指導の実践、ＳＳＷやＳＣ、教育相談部との連携	A	特別指導と教育相談における指導体制の充実を図り、不適応生徒に対しても適切に対応できている。ＳＳＷやＳＣとの連携も密に行われており、多様な生徒に対する対応についても、柔軟に対応できている。

人権教育の推進	研修の充実	全職員の実践力向上	・校外研修（年１回以上）参加、校内研修（学期に１回）実施 ・体罰や暴言等防止	・校外研修日程の周知徹底と推進委員会で企画立案と実施 ・全職員対象コーチング研修実施	B	校外の人権教育研修会に、ほぼ全ての職員が１度は参加し、人権感覚の向上を図ることができた。コーチング研修等の校内研修をとおして、教師の指導力向上につながった。
	人権教育の充実	全ての教育活動にわたって人権教育を実施	・人権教育に係る、年間計画の作成	・人権教育推進委員でＬＨＲ指導案の原案作成	A	教育活動を見通す中で年間計画を作成し、計画的に人権教育ＬＨＲ等を実施することにより、人権感覚の向上を図ることができた。
			・人権に係る講演会を年１回実施	・人権教育推進委員会での企画立案と実施	B	年間計画に基づき、講演会（ハンセン病問題、水俣病問題、デートDV防止）を実施し、基礎的な知識を得て様々な人権課題に関する理解を深めることができた。
	命を大切にする心を育む指導	自他を尊重し、お互いを思いやる言葉や態度を育成できたか	・いじめアンケートで、いじめや暴力を受けたことがある生徒数の減少	・ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）を継続実施 ・命をテーマにした講演会を学期に１回実施 ・毎月の人権標語作成とあいさつ運動の実施	A	ＳＳＴの継続的な取組で、自他を尊重し、思いやる言葉や態度が育成できている。 共助部局と共助委員が中心となり、その月の行事等に合わせて人権意識の啓発につながる標語を毎月作成した。あいさつ運動も毎月実施することができ、お互いを認め合うきっかけを作ることができた。
いじめの防止等	いじめの根絶	・いじめを生まない集団の雰囲気づくり ・いじめの早期発見に取り組む ・いじめ発生時の適切な対応	・生徒会活動等を通して、いじめを生まない雰囲気づくり ・生徒と教師の信頼関係構築と生徒の相談しやすい環境整備 ・いじめが起きた際、適切な対応法の徹底	・標語やポスターの募集、いじめの撲滅宣言実施 ・日頃から「認め・ほめ・励まし・伸ばす」教育と生徒の人権に配慮した教育実践 ・本校いじめ防止基本方針に則りいじめ根絶への取組実践 ・重大事態対応マニュアルの整備	A	重大事態の発生もなく、12月末時点で、3件のいじめを認知した。いずれも解決若しくは解決の方向に遷移している。いじめ防止に係る取組と日常的な観察や指導が一定の成果を上げている。しかし、冷やかしやからかいといった生徒間の出来事が見過ごされている面も一部あるため、これをどのように組織的に情報共有を行い、その後の対応につなげていくのかが、今後の課題である。
（コミュニティ・スクールなど）地域連携	生徒・保護者・職員による地域連携	防災型コミュニティ・スクールとして地域との連携体制を構築	・地域住民と学校関係者の協力体制を確認 ・避難所運営マニュアルの作成 ・防災をテーマとした探究活動	・学校運営協議会を開催し、具体的な連携体制の確認や避難所運営マニュアルの作成 ・地域と連携した防災避難訓練や防災に関する教育活動の実施	A	本校独自の学校運営協議会を３回開催し、連携体制の確認や避難所運営マニュアルの完成に向け取り組んでいる。防災避難訓練については、学校運営協議会の委員の方々にも参加していただき、実践的な訓練を行うことができた。またその際、生徒に対し体験談等も話していただき交流も深めることができた。
	開かれた学校づくりの充実	ものづくりを通した地域貢献や魅力ある教育実践と中学生、保護者、地域社会への教育成果の周知徹底	ＰＴＡ総会は出席率9割以上、文化祭には300人以上の来客者数を実現する	中学生体験入学の実施	C	中学生体験入学の参加者は、昨年度より73人少なかったが、各科とも内容は充実しており、ＰＲはできていた。本校への興味関心のある項目として、部活動と設備環境が増加傾向、勉強と進路が減少傾向にあった。
				教務部、各学科、進路指導部、生徒会等を中心とした広報活動（ＨＰの充実と学校便りの送付等）と積極的マスコミの活用	B	ＰＴＡ総会の出席者数は561名、委任状は157名で、合計718名は98％の出席率となり、保護者の協力を実感することができた。また各分掌での取組は、新聞報道等で取り上げられたが、マスコミの活用が不十分であった。
			教育成果や学校行事の実施状況を年２回中学校等に紹介	学校情報の広報誌制作やホームページの充実、地域のニーズに対応した製品製作等の取組	A	広報委員会を中心としたＰＴＡ新聞や行事ごとのホームページの掲載内容についても充実した内容のものが出来ている。また、各科での取組や資格取得等の情報についてもホームページに掲載している。
特色ある学校づくり	資格検定等の取得や部活動による社会を逞しく生き抜く心身の育成	・朝は課外、放課後は部活動に励むメリハリのある学校生活 ・基礎基本を大切に、凡事徹底の実践	各種コンテスト入賞（３位以内）と部活動各種大会での入賞（目標ベスト８以上）	担当者と生徒・保護者との連携（信頼と協力）による指導強化 外部研修含む顧問指導力向上	B	高校生ものづくりコンテストについては、今年度は金賞の受賞者はなく、入賞３部門と昨年に比べ減少した。 高校総体やサッカー・ラグビー・バスケットボール・バレーボールなど一部の３年生は保護者の理解を得て最後まで頑張っていた。
			生徒の意欲高揚	リーダー研修会を実施し、生徒の自覚と自信を深め、学校の活性化に寄与する人材を育成 資格・大会内容の紹介や合格・入賞結果の報告	C	高校総体後の新チームの主将に対して、夏期休業中にリーダー研修等を実施したが、新人大会は九州大会等の数は減少している。 資格取得状況や各大会の結果はホームページ等に掲載している。
保健安全環境の管理	校内環境整備の充実	整理整頓の意義と意識高揚	各学期毎の校内美化週間を実施する	生徒会、管理部主催による美化コンクールの実施	B	校内美化の意識向上のために、学期ごとに美化コンクールを実施した。清掃時間だけでなく、放課後の教室環境も評価対象とし、教室内の環境整備の更なる向上につながった。美化コンクールをより充実させるために、採点方法や採点基準等の検討が必要である。
		教室、実習棟、部室等の管理意識の高揚	最低学期に１回、職員及び生徒による安全点検を実施	職員及び生徒による危険箇所等の安全点検の実施	B	今年度より職員の他、生徒による安全点検も実施し、危険個所の早期発見に繋がった。対応する予算の確保も課題である。
		教職員が率先垂範し、環境に対する責任ある態度	学校版環境ＩＳＯに取り組む	省資源、リサイクル徹底、使用電力と水道の細やかな節減、ごみの削減と分別の徹底	A	職員・生徒とも省資源やリサイクルを意識して取り組んだ結果、可燃ごみについては、昨年度比－７％で目標を達成できた。
	心身ともに健康な学校生活の実現	健康診断結果等をもとにした日常的な健康管理の充実と健康	心身の健康に悩みを持つ生徒の早期発見と支援保健（病気予防対策等）啓発	生徒、保護者、学校の連携徹底と生徒情報共有化、毎月保健だより発行、外部講師講話の実施 衛生委員会月１回開催	B	検診後の病院受診については、昨年度より２０％程向上している。 衛生委員会は概ね開催することが出来たが、職員の長時間勤務については、今後も改善した取組により減少させる必要がある。
特別支援教育	特別支援教育の充実	個に応じた指導の充実	必要な生徒の支援計画、指導計画作成、適切な支援を実践	学科、学年と連携しながら全職員共通理解に基づく支援の実施	B	個別に支援が継続的に必要な生徒の支援計画、指導計画を作成した。実際の支援を支援計画に綴れるよう担任にその基礎となる普段の様子や手立てを記入してもらった。さらに１年生は、保護者の気づき、中学校からの情報、移行支援、実際の面談を通して支援の方向性を精査した。
				家庭と学校と専門機関の連携		
		発達障がいや悩みのある生徒の情報の共有化と実践	科会や学年会からの情報を教育相談部会で共有化 全職員による適切な対応策を徹底研究	生徒理解研修会の実施 ＳＳＷやＳＣ等の活用及び専門家による校内職員研修会を実施	B	生徒の情報を教育相談部で集約し、支援の方針について確認をしていく作業を丁寧に実施した。ＳＳＷやＳＣを最大限利用し、個別支援につながる生徒への対応の即時性を大切にした。職員研修は長期休業中に県南発達者障がい者支援センターの相談員を講師として招聘した。

４ 学校関係者評価

○学校評価のためのアンケートや自己評価を拝見し、先生方が謙虚に教育活動の成果と課題、今後の対応策と展望を検討されていることが、よく伝わってくる。
○日頃の通学マナーなどは、見る範囲では本校生はよく出来ていると思う。特に、停止している車の前を横切る時にお辞儀をして通る姿がある。
○八代市内における生徒の行動は、市民に対する善行や挨拶等素晴らしいものがある。外部から見たとき、日常の教育指導は生きていると感じる。
○中学生にとって、工業高校の学習内容の理解は、体験学習や入学説明会、パンフレット等によることが多い。特に、資格取得の内容が十分理解が出来ていないのが現状である。中学校での進路指導の充実が必要であり、また、高校としても中学校と連携して具体的な内容理解を進める手立てを検討していく必要がある。
○防災型コミュニティ・スクールの実施は、地域との連携・協働に大いに役立つものと期待している。特に、学校所在地の三中校区は、小中三校ともに今年度から熊本型コミュニティ・スクールと地域学校協働活動をスタートさせている。また、八代市は全校区、小中一貫・連携教育を進めている。更に、中学校区毎に、幼・保等、小、中連携教育を進めている。高校も他校種との連携や地域との協働活動が必要な際には、前述の組織や事業を活用することもできるのではないだろうか。
○地域貢献を少しずつ進めていくことが、高校の存在感につながると思われる。今後とも期待したい。
○厳しい時代背景の中に大切な高校３年間をこの八代工業高校で過ごす生徒は幸せだと思う。素晴らしい学校であることのアピールをもっと強く行う必要性を感じる。先生方や生徒はもちろん、保護者・地域住民が今以上に八代工業高校の事を大切に思う時間を作る事が必要だと思う。自信を持って、今以上に対外発信を行い、一人でも多くの生徒が、この八代工業高校に入学してくることを期待する。
○全日制においては、高い就職率を誇り、地域でも「八工は良い就職がある」「先生方が大変努力されている」等の声を耳にする。一方、その就職先が県外に多いことは、地元に残りたくても残れない県内・八代圏域の産業構造とあいまって残念である。また、少子化の進展で、熊本市内等の一部の公立高校を除いて定員割れが続いており、学校ではさまざまな対策が講じられ、それらの努力によってわずかに定員を割る状態であると考えている。高校に入学してから基礎的な学習を要しているとも聞き及んでおり、より高度な高等学校としての学習の妨げにもなっているものと考えている。
○入学対象生徒の減少とともに、入学者の志願倍率が低下しているのは、他校も同様であるが、熊本市のみに集中している状況がある。また、中学校における学習意欲の低下も同様である。出願したら合格できる状況であるが、適度に切磋琢磨する状況は必要とも言える。これから、海外の人材と競い合わないといけないのに、そのように切磋琢磨する環境が無くなることは、寂しく思う。本校の受験者増加への学校の努力を認めたうえで、県全体としても、熊本市へ集中の実態を踏まえ、何らかの提案や対応が必要ではないだろうか。時期を逸することなく対応されるよう働きかけることが必要である。
○生徒と保護者の思いの乖離や社会の教育力や家庭の教育力が低下している中、課題を抱えて入学する生徒も多く、学校の先生方だけの努力では厳しいところもある。学校においては、やらなければいけないことも多くなってきているが、出来ることをしっかりやっていって欲しい。
○就職率の良さやその内容は、他校からすると羨ましいものである。そのことを広く県民にＰＲするなど、積極的な情報の発信をしていく必要がある。
○働き方改革が言われる中で、高校においても、基本的生活習慣の定着が課題となり、先生方が対応される内容が多岐にわたる実態がある。今後とも家庭教育との連携と役割分担が進むよう願っている。
○働き方改革も必要で、全体的に改善していくことが必要である。出来る事と出来ない事もある。地域の人に頼んでみると喜んでしてくれる人もいる。地域と役割分担をすることで、連携するところは連携し、分業するところは分業するなどして、子どもがいることを幸せと感じる学校にして欲しい。
○二カ年において取り組まれた交通安全教育研究推進事業の研究成果の発表をされた。その内容は、交通安全に対する当事者意識を高めるだけでなく、これらを通じた命の教育そのものであったと思う。取組内容も随所に先生方の創意工夫が見られ、本校のみならず他校、小中学校へも広げていただきたい内容であった。

５ 総合評価

○今年度も生徒募集に向けて学校広報チラシやオリジナル団扇を作成・配布するとともに、文化祭におけるテクノ広場を実施した。また、中学生体験入学やこども科学フェアなど工業高校における「ものづくり」の楽しさをＰＲした。他にも多くのＰＲ活動に取り組んだが、残念ながら志願者数の増加には繋がらなかった。
○学校目標や重点目標については、合格者説明会、始業式や終業式、ＰＴＡ総会や各学年ＰＴＡ等において機会ある毎に周知している。
アンケート調査から生徒89%、保護者93%と昨年度と比べ、理解度は高くなっている。職員はもとより生徒と保護者の理解度を高めるため、年間を通して周知を図っていきたい。
○アンケート調査の学力向上へ取組では、授業が「分かりやすい」と回答した生徒が、86%と昨年度と比べ8ポイント増加している。今後とも生徒一人ひとりの理解度を把握し、授業改善を行うとともに個別指導などの更なる対応策が必要であると考えている。昨年度は生徒の23%が「授業に積極的に取り組んでいない」と回答していたが、今年度は18%と5ポイント減少し、意欲の向上が見られる。今後は更なる学習意欲の向上、進路決定率の向上や資格取得数の増加に繋げていきたい。
○進路指導については、昨年度は37%の生徒が「面談」について十分ではないと回答しているが、今年度は29%となり、8ポイント改善されているものの、まだ３割近くの生徒が「十分ではない」と回答しているので、面談を十分に行える環境を整えていきたいと考えている。
本年度も企業の採用意欲が旺盛で求人数が増加し、就職選考解禁１回目受験で県内工業高校トップクラスの内定率９３％を達成するなどし、１月には就職内定１００％を達成した。進学では大分大学１人、熊本県立技術短期大学校１名の計２人が国公立大学に合格し、昨年度の６人から減少した。今後は、センター試験等にも対応した進学課外の更なる充実が必要である。公務員合格者は（税務職員１人、大阪府警１人、水俣芦北行政事務組合消防本部１人、自衛隊１人、八代市役所１人）５人だった。公務員の指導については希望者が少ないものの、生徒の進路実現のためにも公務員課外についても充実していきたい。
○資格取得については、各科とも熱心に取り組み、ジュニアマイスターの取得者は昨年度９２人から１０人増えて１０２人であった。全国の優良校として学校表彰も受けることができた。
○校内環境美化については、９５％の保護者が「よく整備されている」と回答、生徒及び職員においても、約８割以上の割合で「環境美化が良い」と感じており、いずれも昨年度より向上している。しかし、今年度の可燃ゴミ量を昨年度比－３％（目標値）としていたが、ゴミの分別や削減の取組により目標値以上の削減をすることができた。
○今年度は生徒の活躍が多く見られた。部活動では、ソフトボール部、陸上部、弓道部、水泳部が全国大会出場、柔道部、テニス部が九州大会に出場するなどの活躍が見られ、次年度の県高校総体での活躍を期待している。高校生ものづくりコンテストでは、３部門（電気工事・電子回路組立・化学分析）で入賞した。溶接競技大会では九州大会への出場も果たした。熊本県高等学校生徒理科研究発表会においては、最優秀賞を受賞し、スーパーハイスクール指定校合同研究発表会においても発表を行った。

６ 次年度への課題・改善方策

① 確かな学力の向上	○ ＩＣＴ活用授業の充実　○ アクティブラーニングの積極的活用　○ 各教科の授業研究の更なる充実
② 資格取得の取り組み	○ ジュニアマイスター取得増加に向け、各科が連携した指導体制の確立　○朝課外の内容充実と効率化
③ 地域への発信と連携	○ 学校案内や広報誌、ＨＰの充実と年間を通した計画的な広報活動　○ ものづくりや部活動等を通しての地域貢献
④ 進路指導体制の強化	○ 就職・進学・公務員の指導体制の強化及び企業との連携　○ 進路意識の高揚に向けた各種ガイダンスの工夫改善 ○ 国公立大学と公務員受験対策並びに組織的指導体制の強化　○ 家庭や関係部署との連携強化
⑤ 校内組織の充実	○ 人権教育推進に向けた指導体制の充実　○ 教育相談部(人権・特別支援）の組織内連携強化と関係機関との連携
⑥ 交通安全教育の徹底	○ 交通安全意識高揚に向けた講話　○ 自転車の交通ルールとマナーの徹底　○ 保護者と連携した交通安全教育の充実